

講義コード	11C0282400	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	北原 克宣	開講期	通年
科目名	農業経済					北原 克宣		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	農業経済は、現代の農業・食料問題がどのようなかたちで表面化しているのか、その発生メカニズムはどうなっているのか、今後の解決策などについて研究する分野である。本講義では、前期には農業経済の基礎理論および世界の食料需給動向の実態を説明する。後期には日本における農業・食料問題の歴史および現状と食料・農業政策の現状と課題について説明する。								
到達目標	本講義の到達目標は、次のような能力を養うことである。①農業・食料問題の時事問題について説明できる、②農業・食料問題について歴史具体的に説明できる、③食料・農業政策について説明できる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	毎回、授業前1週間の社会経済の動きと農業・食料問題のニュースをチェックするとともに、授業中に紹介した書籍に必ず目を通し、120時間以上の授業外学修を行うこと。								
授業計画	<p>【第1回】 農業・食料をめぐる現状</p> <p>【第2回】 農業と工業はどう違うか</p> <p>【第3回】 農業問題はなぜ発生するのか－地代発生メカニズム－</p> <p>【第4回】 資本主義の発展と農業問題－農工間の不均等発展－</p> <p>【第5回】 資本主義の発展と農業問題－各国の農業構造の違いはなぜ生まれたか－</p> <p>【第6回】 戦前日本資本主義における農業問題－日本の土地所有制度－</p> <p>【第7回】 戦後日本資本主義における農業問題－農地改革の意義と限界－</p> <p>【第8回】 戦後日本資本主義における農業問題－高度経済成長と農業の解体化－</p> <p>【第9回】 戦後日本資本主義における農業問題－低成長への移行と農業解体の深化－</p> <p>【第10回】 現代日本資本主義における農業問題－1980年代半ば以降の農業構造（1）－</p> <p>【第11回】 現代日本資本主義における農業問題－1980年代半ば以降の農業構造（2）－</p> <p>【第12回】 現代の農業・食料問題－多国籍アグリビジネスによる食料支配－</p> <p>【第13回】 現代の農業・食料問題－農業技術の現在と農業・食料（1）－</p> <p>【第14回】 現代の農業・食料問題－農業技術の現在と農業・食料（2）－</p> <p>【第15回】 農業・食料問題の解決に向けて</p> <p>【第16回】 現代の農業政策の課題</p> <p>【第17回】 農業問題の発生と農業政策－農業政策はなぜ必要になったか－</p> <p>【第18回】 戦後日本における農業政策の展開－戦後改革と食糧増産政策－</p> <p>【第19回】 戦後日本における農業政策の展開－基本法農政・総合農政－</p> <p>【第20回】 戦後日本における農業政策の展開－地域農政－</p> <p>【第21回】 戦後日本における農業政策の展開－ガット・ウルグアイラウンドと農政の転換－</p> <p>【第22回】 戦後日本における農業政策の展開－新自由主義的農政－</p> <p>【第23回】 農産物価格・直接支払い政策の課題</p> <p>【第24回】 農業構造政策の課題</p> <p>【第25回】 地域政策の課題</p> <p>【第26回】 農業協同組合の役割と課題</p> <p>【第27回】 TPP・FTAと農業政策</p> <p>【第28回】 欧米における農業政策－アメリカ・EUを中心に－</p> <p>【第29回】 アジアにおける農業政策－中国・韓国を中心に－</p> <p>【第30回】 これからの農業・食料政策の課題</p>								
成績評価の方法	中間試験（50%）、期末試験（50%）								
フィードバックの内容	リアクションペーパーに対するフィードバックを翌週の授業内にて行う。								
教科書									
指定図書	『再生産構造と地代理論』姜昌周（青木書店）1993、『現代資本主義と農業再編の課題』保志恂ほか（御茶の水書房）1999、『現代日本資本主義における農業問題』上原信博（御茶の水書房）1997、『アグリビジネス論』中野一新編（有斐閣）1998、『現代の経済政策』田代洋一ほか（有斐閣）2006、『農業問題入門』田代洋一（大月書店）2003、『日本の農地：所有と制度の略史』島本富夫（全国農業会議所）2003、『農業・食料問題入門』田代洋一（大月書店）2012年、『多国籍アグリビジネスと農業・食料支配』北原克宣・安藤光義編（明石書店）2016年								
参考書									
教員からのお知らせ	農業や農村とは縁の薄い人でも、毎日の食事は欠かさないでしょう。その食事の元になる食料を生産しているのが農業であり、農家の人たちです。本講義の受講を希望する人は、自分が毎日の食事で食しているものが、どこで、どのように作られ、どのようにして食卓まで届いているのかということに興味を持つことから始めて下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談等は随時受け付けます。講義時に声をかけて頂ければ、日程を調整します。								
その他									